

日本海区水産試験研究

連絡ニュース

No.362

新しい年を迎えるにあたって

井 上 尚 文

明けましておめでとうございます。

日本海ブロック府県水産試験場をはじめ関係機関の皆様には、常日頃から私共日水研に対して御支援、御協力いただき厚くお礼申し上げますと共に本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

周知のように、昨年は我が国の漁業にとって、今までに経験したことのなかった新たな問題に直面しました。即ち、公海大規模流し網漁業のモラトリアム、ベーリング公海漁業の操業の自主的停止等に地球環境問題等が加わり、特に国際的な漁業条件は一段と厳しい状況になりました。こうした情勢の中で、水産行政はもとより業界や水産試験研究機関等が一丸となって生起する諸問題に対応しつつ、新たな水産業の確立に向けて総力を傾注すべき重大な局面に立たされているといってよいと思ひます。

さて、日本海をめぐる国際情勢は対岸のロシアの現状に象徴されるように、未だ混迷のうちに推移しています。一方では、近い将来、環日本海時代の到来に大きな期待が寄せられ、その機運の高まりと動きが活発化しています。昨年9月に神戸市で日本海沿岸4ヶ国による「日本海水産資源研究者会議」(兵庫県主催)が開催されたのを皮切りに、10月には新潟市で「環日本海環境協力会議」が日本、中国、韓国、モンゴル、ロシアの参加で盛大に開催され、また、本年2月に予定されている「環日本海国際フォーラム'93イン新潟」の中でも環日本海の水産交流に関する分科会が開かれることになっています。このほか、日本海関係道府県と国別交流も数多く行

なわれています。

このような推移の中で、日本海における漁業の将来を展望する際、環日本海各国との間に水産資源の合理的利用と適切な管理等に関する国際的協力体制を確立していくための試験研究の推進が極めて重要な課題であろうかと思います。

日本海ブロックの水産試験研究機関では、従来から相互に連携を図りながら日本海の水産資源とそれらに関連する海洋環境等の調査研究に取り組んできましたが、その目標すところは、かつての対馬暖流開発調査をはじめ、極前線漁場開発、北方冷水域新漁場開発等の新漁場や新資源のいわゆる開発調査に重点がおかれ、よく知られているように調査研究の成果が直接、日本海の漁業振興と発展に大きく貢献してきました。漁業をめぐる内外の情勢変化を踏えつつ、国際化時代に対応した漁業を推進するためには、新しい視点からの試験研究の展開が基本的に不可欠といえますし、それだけに試験研究に課せられた役割は大きなものがあります。

環日本海時代の到来に備えて、水産資源動向の的確な把握と環境保全を含めた海洋環境に関する調査研究の更なる推進、地球環境問題への対応と国際的貢献の要請が強まる中で、日本海に関する総合的な研究を関係試験研究機関が連携強化を図りながら着実に推進することが非常に重要と思われます。

皆様方の御健勝とますます御発展をお祈りいたします。

(いのうえ なおふみ 日水研所長)

新 年 の 御 挨 捂

佐 藤 立 治

明けましておめでとうございます。

今年は年頭に皇太子妃決定という明るい話題が全国を駆け巡り、まことに心が弾むところです。

さて、本県においては毎年年末に青森県の水産に関する10大ニュースを発表しておりますが、平成4年の10大ニュースは明暗半ばした内容となっております。明るい方としては、スルメイカの豊漁や2カ年間記録的な不漁に見舞われたコンブ漁に回復のきざしが見えてきたこと等です。

一方、厳しい情勢としては、公海流し網漁業が第46回国連総会の決議に基づいて平成4年末で消滅し、これに伴って青森県ではいか流し網漁船49隻が転廃業すること

や、また、陸奥湾産ホタテガイは全国的な生産量の増加傾向や景気低迷に伴う需要の伸び悩み、更にはECによる禁輸措置等により価格が低下して漁業者は厳しい状況におかれていること等です。

平成5年度において本水試では、沿岸、沖合域における資源管理型漁業の推進が渴望されている情勢に対応して、新規事業として最新鋭の調査研究機器を搭載した科学調査船（昭和53年建造の開運丸299トンの代船）の建造や、本県太平洋域におけるツノナシオキアミ資源開発調査などを計画し現在予算獲得に向けて邁進中です。

（さとう りゅうじ 青森県水産試験場長）

村 上 圭 郎

年改まり平成5年、日本水研はじめ我が日本海ブロックの各県水試の各位におかれましては新たな抱負の下に業務に御精励のことと思います。本年も宜しく御指導の程をお願いいたします。当センターも平成3年度から一ヵ年に亘って新築工事を行っておりましたところ、この度外構工事の一部を残して研究管理棟、実験機械棟、飼育実験棟、親魚棟、ほたてがい作業舎等が完成し業務を開始しており、職員一同新庁舎で張り切っております。

竣工にあたっての正式な御披露は新年度早々を予定いたしておりますので、その節は是非来所のうえ、御意見御批評を載きたいものと思っております。近年、作り育

てる漁業にかかわる各種の技術開発研究の需要が益々高まってきております。様々な課題を効率よく検討解決するには、一県の枠を越えた強力な研究集団での対処が、これまで以上に必要となってくるのではないかでしょうか。

研究体制を取り巻く状況は、人的にも予算的にも厳しいものがありますが、不振にあえぐ日本海漁業の振興の為に、日本水研を中心に希望の火を灯そうではありませんか。平成5年の初頭に当たり日本海ブロックの皆様方の御健勝と日本海の大漁を祈念して御挨拶といたします。

（むらかみ よしお 青森県水産増殖センター所長）

佐々木 健

をみない単一魚種に対する全面的な漁獲規制であり、資源の早急な回復を願って身を切る思いで実施に踏みきつたものであります。

二つ目は長年の懸案でありました秋田県栽培漁業協会が設立されたことであり、本年4月から本格的に事業を開始し、つくり育てる漁業の実現のため漁業者自らが取り組む基盤が整うこととなりました。

明けましておめでとうございます。

新年を迎え、謹んで皆様の御多幸と御健勝をお祈り申しあげます。

昨年を振りかえってみると、本県水産業界の歴史のうえで特筆すべき出来事が二つありました。

その一つは鱈の全面禁漁であります。底びき網や定置網等関係漁業者の総意によるものとはいえ、全国でも例

以上の二点について共通していえることは、資源の適正な管理を前提とし、一丸となって厳しい漁業環境を乗りきっていこうとする姿が伺われることであります。

試験研究にたずさわる者としても、このような動きに敏感に対応し、一時でも早く手ごたえのある漁業が実現

するよう努力を重ねなければならないことは勿論のことであり、関係各位のこれまで以上の御指導をお願い申しあげ新年の挨拶とします。

(ささき たけし 秋田県水産振興センター所長)

佐 藤 昭 夫

あけましておめでとうございます。

昨年4月就任以来10ヶ月を無我夢中で過ごして来ただけで、水産試験場における試験研究の総合化の困難さを身にしみて思う昨今です。

地域水産業の不振ばかりが目立つ中で、後継者不足が叫ばれていますが、後継者の確保が順調な地域もあるのが実情です。このような地域は漁業者自身が研究熱心で、かつ組織化と自助努力に富み、なにもましてかれらが明日への明るい展望を失っていない事が際立っています。

地方試験研究機関では試験研究課題の多様化・高度化のなか、研究課題の増加も目立っており、金はあるが人が足りないのが実情です。だからといって手抜きは許さ

れません。地域における産業研究機関として今必要なもの、将来を見据えて必要となるであろうものを判断し、水産業の明るい未来につながる研究体制と課題体系を合理的に構築することが要求されていると考えています。

1 水産試験場の力は限られていますが、日本海を共通のフィールドとしている日本海ブロックの研究機関が協力しながら、自立した漁業者と手を携えて、共通の目標に向かって進むことが、研究の進展に大きな力になるものと確信しています。

本年もご指導・ご協力のほどよろしくお願ひ致します。

(さとう あきお 山形県水産試験場長)

苅 部 信 二

平成4年度は、当水産試験場にとって多忙な年となつた。昭和34年に三島郡寺泊町から現在地に居を構えて30数余年住み慣れた建家の最後の年となった。平成5年4月1日、新水産試験場の業務開始に向け、最終段階に入り、新しい研究業務に対応すべく研究員を、海洋関係では日本海区水産研究所へ3ヵ月間、加工関係では民間企業に短期2週間研修へ派遣し、新しい技術の習得を図った。日本海区水産研究所には漁海況、特にリモートセンシング技術等の指導に預かり、大変お世話になりました。この場をおかりして厚くお礼申し上げます。

さて、最近沿岸漁業者の高齢化に従い、水産試験場に漁業者が持参する悩みごとが大きく変化してきた。旧来

の攻めの課題から弱気の課題、後継者不足、核家族化が進む中で老後一日でも長く漁業をつづけたい願望、これらが絡み合った相談を受ける。その一つの例として「かあちゃんが動けなくなったら」「腰を悪くしたら」等、旧来とは違った話題となる。早朝からの弁当作り、夕方帰港時の「モヤイ」取り、魚の選別出荷、地場売り等、奥方の存在あって沿岸漁業は成立していると言い切って過言ではない。このような漁業者の別の意味での悩み事に手助けし、漁業者が安心して操業出来る技術開発に取り組む所存です。よろしくご鞭撻をお願い申し上げます。

(かるべ しんじ 新潟県水産試験場長)

丸 山 雄

あけましておめでとうございます。

本年は、当所村上支場における取水管の更新が行なわ

れます。取水は種苗生産の生命線で各県でも取水や渋過施設の整備には御苦勞されていることと思います。

本県県営施設では平成2、3年度に本所における取水管、汙過装置の更新、新設、更に新水産試験場第2期工事での取水施設整備が近年予定されています。しかし、これらの施設整備、保守には多大な経費を要します。

また、当センターが生物的、環境的調査を担当している、マリノフォーラム21事業のヒラメ海底牧場造成研究の海上施設についても保守管理に多大の経費がかかります。

今までの増殖事業の大きなものは漁場造成による魚礁設置が大きく、投入後は経済効果では云々されても、潜

砂などがあっても復旧、管理などの経費は無いに等しいもので、保守管理についての助成は貧弱なものです。

栽培漁業の事業が拡大するにつれ、陸上、海上の施設が増大します。これらを県等役所の管理から漁業者等の民間に移行させ運用させるためには施設整備に加えて保守管理や施設のスクラップ・アンド・ビルトがやり易い制度上の見なおしが必要と考えている一人です。

本年もよろしくお願ひ申しあげます。

(まるやま かつ 新潟県栽培漁業センター所長)

正木 康昭

要としているのは、先端・先導的研究でもなければ、化学・物理部門で騒がれている基礎研究でもなく、もっと以前の問題、即ち、Natural historyの価値を正しく評価する土壤作りにあると愚考しています。一度、原点に返って、余り先を見ずに、高い視点で日本の水産研究を眺めれば、最初に着手すべきものが見えるでしょう。砂上の楼閣造りは止め、「急がば廻れ」で、地道な、将来を見据えた調査研究を望む一人であります。今年も関係各位のご指導をお願い申し上げます。

(まさき やすあき 富山県水産試験場長)

岡崎 俊彦

センターでは「安くて丈夫な種苗づくり」を目指して種苗生産を行っていますが、魚種ごとに放流の効果に明暗がでてきており、今後、生産魚種の取捨選択が必要となると考えています。

また、これから栽培漁業は漁業者自らの手で積極的に進めることが期待され、より一層の漁業者の協力が不可欠です。

本年も皆様のご指導、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

(おかざき としひこ 富山県栽培漁業センター所長)

明けましておめでとうございます。

好景気もバブルと消え、平成不況の嵐の中で始まった平成5年ではありますが、この様な時にこそ、深く、静かに、過去を反省し、将来を考える良い機会ではないでしょうか。何か弾みを付けたい時には、やれ先端・先導的研究、それ基盤的研究などと騒ぎ立てますが、本当に水産研究を対象にして言われているのでしょうか?民間では、利益目的研究に集中し、大学では極めて狭い分野に固執?しているようにも感じられます。国や県の試験研究機関の方は、民間や大学とよく似通った姿を呈しているのではないでしょうか?現在、水産研究で最も必

平成4年の種苗生産は、ヒラメに病気が出たもののおおむね順調に行われ、ヒラメについても幸い、公社栽培漁業センターから稚魚を譲り受けることができ放流用種苗を生産することが出来ました。

今年は、クロダイ生産棟が完成し、平成2年度から国の「新技術導入施設整備事業」により進めていたクロレラ池、ワムシ生産棟、クロダイ生産棟の一連の施設の整備が一段落します。

この施設を用い、クロダイの生産に本格的に取り組むとともに、漁業者の要望の強いヒラメの増産を図ることにしています。

境 谷 武 二

明けましておめでとうございます。

今年は、「酉年」、鶴は夜明けをつげる「時告鶴」で新しい希望に満ちた年を迎えました。一般には鳥が羽撃き、四方八方より幸いを運ぶといわれ、漁業界にとっても今年は幸の多い年であることを願ってやみません。

昨年は当水試にとりまして、将来の試験・研究基盤整備のための体制を整える記念すべき年で、水産総合センターの起工式を7月下旬に行い、平成6年度開所を目指し、工事が進められています。新庁舎は試験研究の堅いイメージから脱却し、「漁業者をはじめ、県民が身近に利用できる場にしたい」との観点で計画されております。

明けましておめでとうございます。

昨年の秋に、産地の事情による七尾湾の養殖種ガキの不足がクローズアップされ、種ガキをほぼ完全に県外に依存している業界を中心に地種採苗体制の不備が声高に指摘され、カキは、年間水揚げ数億円で本県養殖業の首位にあることから、結局、5年度より試験場の研究課題になることになった。カキについて試験場では斃死等の調査は実施しており、また、地種採苗を研究課題としていたかった理由は、試験場・業界共にあった訳ですが、とにかく、眼前に生じた進行形の課題に対する即応体制を今の組織の中でどう展開していくべきか頭の痛いところです。研究課題の「スクラップ・アンド・ビ

また禄剛丸の代船がこの2月に進水・回航の運びとなっております。本船は最先端の調査・航海機器を搭載し、装備全般にわたり集中管理化、省力化、省エネ化が図られています。

申すまでもなく、水産試験場は地域の水産業の発展に貢献し、試験研究の成果を還元する機関であると考えております。このたび新たな施設整備と充実を契機に、これらの諸施設を有効に活用し、関係の方々の期待に報いるよう努力して参りたいと思います。今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(さかいだに たけじ 石川県水産試験場長)

高 橋 稔 彦

ルド」は鉄則ではありますようですが、現実にはスクラップには多方面からの抵抗があり、かといって今回のように全く対応していないと試験場の怠慢の声もあがり、厳しい状況にある業界の一助となるために試験場の舵取りをどうすれば良いのか……例年になく早く訪れた春一番と、一転して北西の大時化、おまけに能登沖地震とで、穏やかならざる様相の能登の海をながめて、思案中です。

関係各位の今まで以上のご指導・ご協力をお願い致します。

(たかはし としひこ 石川県増殖試験場長)

今 攸

をみると、小型で商品価値の低い水ガニが雄ガニ全漁獲個体数の70%ほどをも占め、資源の効率的利用はほとんど進んでいないことを知った。とても喜んではいられない。

水産生物の多くは、時折、大量に発生して卓越年級群を形成することが知られているが、最近の研究ではズワイガニにもそれが認められている。もし、わずかな猶予期間が与えられれば、すぐに元に戻る力強い潜在力のあ

近年の西部日本海におけるズワイガニ総漁獲量は、福井県だけで最盛期に漁獲した量さえも下回り、しかも減少傾向は依然として止まっていない。そんな中にあって、福井県のここ10年間の漁獲量はほぼ安定し、わずかながら増加の傾向さえ示している。しかも、最近2年間は西部日本海の各府県で最も多い漁獲を記録した。一瞬、漁業関係者の努力が実り、資源量の減少に歯止めがかかったと思い、胸をなでおろした。しかし、その内訳

ることを私達に教えていた。しかし、人間社会ではまだそれに応える充分な意識がない。

お正月料理の越前がにを肴に、幸福感に酔いながら、ふと、人間自身が己のおごりとぜいたくの限界を意識しない限り、水産資源の減少が続くのではないかと感じ

た。どうも、資源管理は水産研究者の手のとどかないところにあるような気がして、急激に酔いがさめてしまった。

(こんとおし 福井県水産試験場長)

安田 徹

明けましておめでとうございます。

今年も当地はほとんど雪のない過し易い新年となりました。おかげ様で本年度のナマコ種苗生産は昨年と同様順調に進み、生残率が実に10%以上の高率となりました。水産庁や水産大学校の指導専門家からもこの成果は高く評価され、所員一同喜んでいます。又、地元漁業者からその放流効果が期待されています。

次に、昨年入学した県立大学海洋生物資源学部の第1期生約40名が、7月の臨海実習終了後当所を訪れ、作り

育てる漁業の実態を見学、向学心を大いに高めた様でした。その他、浙江省海洋水産研究所から研修生を受け入れており、9月迄マダイ、クルマエビを主体に種苗生産や放流技術を研修する予定となっております。

以上の様に当栽培漁業センターの役割は、今後も益々その重要性が拡大すると考えられますので、皆様の御指導と御協力ををお願いし、新年的御挨拶と致します。

(やすだ とおる 福井県栽培漁業センター所長)

篠田 正俊

新しい年と新事業年度を迎えて、みなさまのご健康とご多幸をお祈りいたしますと共に、本年も宜しくお願い申し上げます。

最近、漁業者が本気で管理型漁業を考え、加えて実践するようになりました。お陰で、せっかく放流のために生産した種苗の人気が落ちて、栽培漁業という言葉もすっかり地に落ちた感がいたします。もともと、漁業者は資源をうまく使って行く知恵袋をもっていますが、種苗を放流して資源を肥やす方法など海の漁業者は考えもしなかったようです。いささか強引に、北海のサケ放流を見習えといったところで、いっても本人も半信半疑。

ところが、管理型の話となると議論白熱、具体的な結論があとに残ります。乗りに乗った話では、人工生産した種苗を効率よく使う方法までわかってまいります。今まで、聞いたこともないアッと驚く漁師の知恵に水産技術が上乗せできます。ここまで、資源の管理話を進めるにはずいぶん疲れますが、やはり浜でないと水産技術者は育たないし、本物の技術は開発できないものだと、改めて実感いたしております。新年度も浜で勉強いたします。

(しおだ まさとし 京都府立海洋センター所長)

眞鍋 武彦

早春の息吹を感じさせる頃となりました。皆様明けましておめでとうございます。昨年4月に赴任しもう一年近くが過ぎようとしています。はじめての日本海で、何も判らないところ、皆様方には共同試験等に多くのご協力、ご鞭撻を頂き、心より感謝し御礼申し上げます。

内海側から赴任します感じたのはやはり両海域の海況の違いであり、さらに漁業形態の違いでした。両海域に

は地理的に連続性がなく、二海域を持つ青森県山口県をはじめ、日本海側の各府県との決定的な違いもここにあります。瀬戸内海側における、環境の変化に順応した養殖漁業、栽培漁業等、及び小規模ではあるが多様化した漁業と、但馬地域における沖合底曳、沖合いか釣等人力による資源管理をなかなか寄せつけない規模の大きい漁業との違いの原点はやはり地理的な相違にあるよ

うです。但馬地域においては他府県との関係に加え、環日本海各国と協調した資源管理資源培養が必須といえます。また、加工技術等、漁獲物の付加価値の向上に努め、同時に流通体制を整備し恒常的な漁業の構築をめざしたいと思います。また兵庫県では但馬栽培漁業センターの建設、但馬の祭典、環日本海フォーラムの開催、

海外技術研修生の受入れなど多くの事業が進行しています。これらの研究、事業に対する試験研究各機関の一層のご指導ご支援をお願いし年頭のご挨拶と致します。

(まなべ たけひこ 兵庫県但馬水産事務所試験研究室長)

明けましておめでとうございます。

新春を迎へ皆様の御清栄をお喜び申し上げますとともに今年がよい年であるよう祈念いたします。

昨年は、バブル経済の崩壊、佐川急便事件に端を発する政治不信、ソマリア中近東での政情不安等国内外とも激動の一年でありましたが、水産業界にとっても唯一自由海域であるはずの公海における流網のモラトリアム、依然として続く外国漁船の違法無謀操業等々厳しい年であったと思います。

さて境港に赴任して早や四年就任当初から日本海のマイワシが気になっているところですが、昨年境港の水揚量は約五十五万トンで釧路を抜いて日本一になったとは

いえ量、金額ともに前年を下回り更に全体の七割強を占めるマイワシは平成元年をピークに年々減少の一途を辿る等私同様地元漁業関係者は手ばなしで喜べない複雑な心境にあります。

地元はもとよりマイワシに依存する日本海側の生産者、流通加工業者は今後の資源動向に強い関心を持ち水研、水試に対し的確な動向把握を期待しています。一日も早く「対馬暖流系マイワシ資源緊急調査事業」の成果が得られることを願う昨今です。今年も日水研をはじめ皆様方の一層の御指導をいただきますようよろしくお願ひします。

(うえだ けんじ 鳥取県水産試験場長)

服部 守男

て来て獲れるとは限らない。人間側にとって魚は公平な動きはしてくれない。

種苗生産・放流の時代から、放流効果実証事業の時代にあって、栽培漁業推進事業における受益者と放流事業の放流者は必ずしも一致しない。むしろ人間側が民主的で公平であるような事を考えない限り、事業はうまく行きそうでない。

最近、自治体の「広域連合」制度について地方制度調査会の専門委員会で概要がまとめた。一長一短はあるが、少なくとも栽培漁業の推進では獲る側にとって有効的な放流の在り方に役立つのではないだろうか。

(はっとり もりを 島根県水産試験場長)

鈴本 博也

度から5カ年計画で進められていた施設整備も滞りなく完成致し、併せて、平成4年4月1日付で施設管理技師

新春に想う。“魚は民主主義を守ってくれない”

広域回遊性の魚類は、人間側の期待や思惑にはおかまい無しに海を泳ぎ回る。それは魚にとっては当然の事柄であり、魚自身は棲み易い、餌の食べ易い、育ち易いところを求めて泳いでいる。少くとも自然に生まれた魚にとって昔からそうであった。

ところが、人間が魚の種苗をつくって放流する時代になってしまって（一部の音響馴致によるコントロールを除いて）、放流後は人間の手のとどかない領域になってしまいます。

鮭のように母川回帰性が広域回遊性魚類に限らず、自分がお金を出して放流した魚が、自分のところに戻っ

新年明けましておめでとうございます。

島根県栽培漁業センターでは、今年初めには昭和63年

1名の増員も実現いたしました。これは偏に県当局並びに関係各位の御理解と絶大なる御支援、御協力の賜物であり、深く感謝申し上げる次第です。

折も折、時期を同じくして、社団法人「島根県栽培漁業協会」が平成4年8月3日の設立総会により発足の運びとなり、本県沿岸漁業の振興のため栽培漁業の推進がより一層積極的に図られることになりました。

当センターも健苗の安定量産の重要性が増々強くなりその責務の重大さを痛感いたしているところです。現

在、全職員一丸となって、マダイ、ヒラメ、クルマエビ、アワビ、イタヤガイ等の放流用、養殖用の種苗量産と安定供給に全力を傾けているところです。

今後は県内各地で行なわれる地域パイロット事業の進展により、有効放流尾数の増大が計れることになります。当センターの種苗量産が資源増加の一翼を担なうべく頑張りたいと思います。今後共よろしくお願ひ致します。

(すずもと ひろなり 島根県栽培漁業センター所長)

中 原 民 男

主船(119トン)、従船(16トン)の建造に取り掛かり、従船は昨年10月竣工し、主船は本年2月に竣工予定と、新たな調査に向け出発することになりました。

さらに、栽培漁業をより強力に推進するため、本年4月より、種苗生産部門を公社化し、当場で生産していたアワビも栽培漁業センターで担当することとなり、機構の再編と設備の拡充強化が進められつつあります。各機関におかれましても、同様に漁業経営の安定のため、機構の再編と強化に努められているものと思います。

こうしたなか、国と県あるいは県間の連携が強く求められる時代になったことを感じます。

どうか、本年もよろしくお願ひします。

(なかはら たみお 山口県外海水産試験場長)

藤 井 秦 司

特にこれから漁業者の声を行政、研究等の中でいかし、3者の英知を合致し、あすの水産振興に導きたいものであります。

当センターにおきましては、来る3月31日を以て発足以来17年間の幕を閉じることになります。

そして、平成5年4月1日から、漁業者が構成員となっている社団法人山口県栽培漁業公社が種苗生産業務を担うことになりますので、今後の御指導、御鞭撻よろしくお願ひします。

(ふじい しんじ 山口県外海栽培漁業センター所長)

明けましておめでとうございます。

平成5年の新春を迎え、本年が良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

水産業の急速な変化にともない、水産の試験研究に携わる我々にも、新たな対応を求められています。山口県外海水産試験場も多くの課題を抱え、昨年は場内に水産加工技術センターを建設し、水産加工業者との共同技術開発、新製品開発ならびに漁村加工部・婦人部への加工技術研修を精力的に行ない水産加工品の流通促進と地先資源の付加価値向上に努めてまいりました。

また、資源管理、漁場管理がクローズアップされ、実行段階に差し掛り、漁場環境と資源・生態調査が重要となってきたなかで、現調査船が老朽化したこともあり、

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎える、皆様のご清栄とご多幸を心から祈念します。

近年漁業就業者が高令化、減少する中で、これからの漁業形態は大きく変わるとしている。

沿岸漁業協同組合では、今後予想される漁業就業者の年令構成から、地先漁場の限られた海域の漁場利用案として、移動性の小さいカサゴ・アワビ・サザエ等の種苗放流、管理を積極的に行い、最大の生産効果を得るよう、地先守備型の漁業体制を調べることが検討されている。さらに、回遊性魚種についても広域放流化が積極的に進められている。

《所 内 談 話 会》

平成 4 年 10 月 30 日

対馬暖流系餌料カイアシ類とその生態

平川 和正

どうする日本海の底びき網漁業

金丸 信一

《会 議 レ ポ ト》

200カイリ水域内漁業資源卵稚仔担当者連絡会議

日 時 平成 4 年 10 月 13~14 日

場 所 日水研会議室

参集機関：14 参加人数：36

三重大学木村清志助教授による「沿岸性魚類幼期の識別－飼育法からのアプローチ」と題した特別講演と 3 課題の提供がなされた。

また、今後の200カイリ卵・稚仔調査の方針に関する意見交換が行われた。

2 日目は、卵・稚仔の査定検討に当てられた。

平成 4 年度日本海区底魚資源研究連絡会議

日 時 平成 4 年 11 月 25~26 日

場 所 新潟市 KKRニュー越路

参集機関：14 参加人数：30

1 日目は各県における近年の資源状態の情報交換と今後の200カイリ水域内漁業資源調査の方策について意見交換した。

2 日目は、海洋科学技術センター岡本峰雄博士による「新しい大陸棚調査手法－ズワイガニ調査を例として－」と題した特別講演と 5 課題の研究発表がなされた。

日口漁業専門家・科学者会議代表団歓迎レセプション

平成 4 年 10 月 19 日より新潟市を会場として開催された日口漁業専門家・科学者会議のスケジュールの合間をぬって、22 日新潟市内で日水研主催の歓迎レセプションが催された。

ロシア側アクリン団長を始め 10 名、この中には既に日本海共同調査で一緒に乗船調査したチンロ研究員もあり、これに日本側団員 15 名、新潟県関係者及び日水研職員を加え、和やかに歓談が続いた。

同会議は 24・25 日新潟県小国町でのエクスカーション終了後、会議の場を東京に移して行われた。

《刊行物ニュース》

日本海区沖合底びき網漁業漁場別漁獲統計調査資料

(1991年)

平成 5 年 1 月

日本海区小型底びき網漁業漁場別漁獲統計調査資料

(1991年)

平成 5 年 1 月

編 集 後 記

例年掲載している「日本海で実施された標識放流」も回を重ねる毎に対象種、放流数、使用標識も多様になってきました。この情報作成には各機関の担当者の御協力を頂いており、短期間での作業で御無理をお願いしていますが厚く御礼申し上げます。

併せて、御多忙中、新年の貴稿をお寄せ頂いた各県場所長に御礼申し上げ、編集作業に手間取ったことをお詫びいたします。

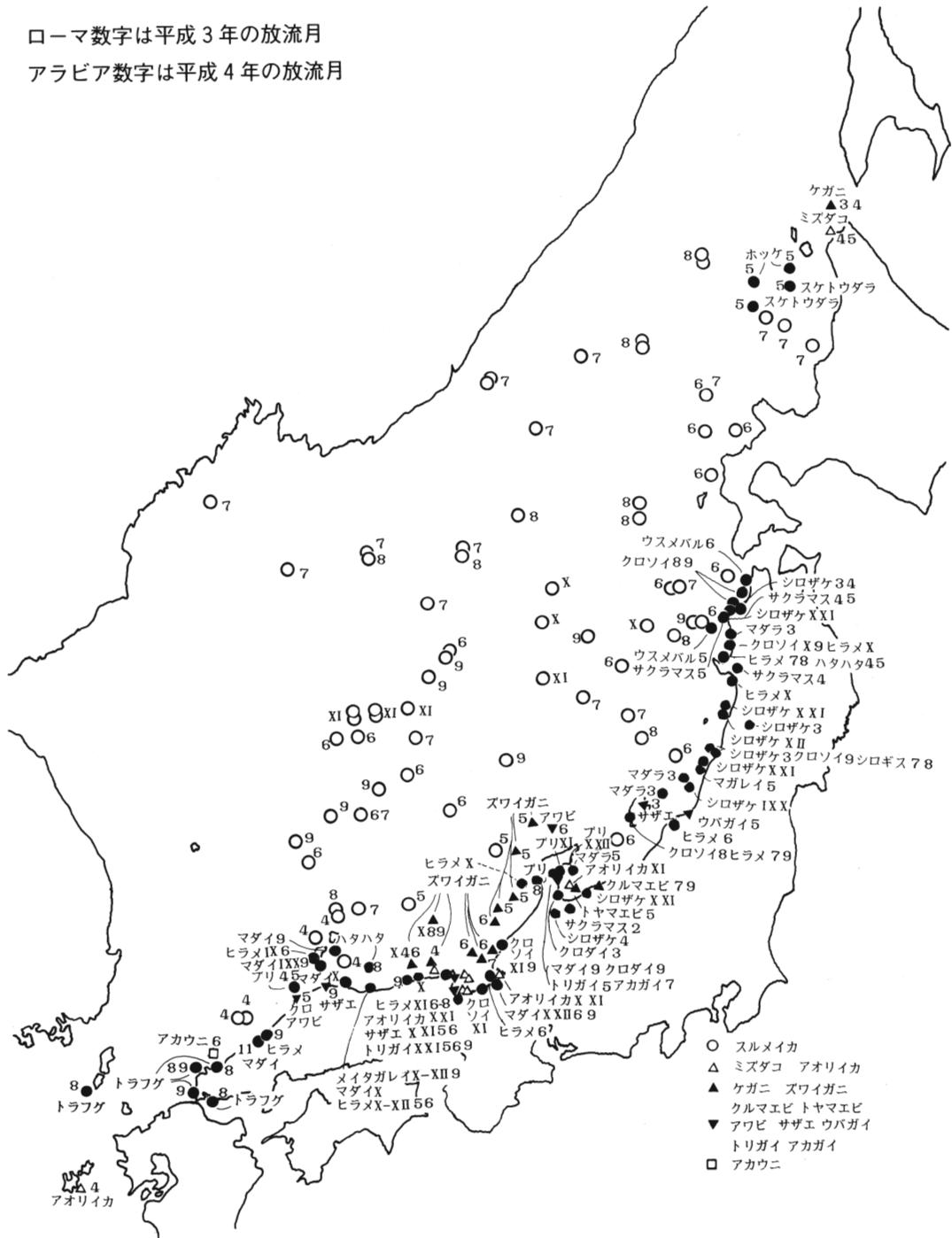
標識放流情報(12)

日本海で実施された標識放流

平成3年10月～平成4年9月

ローマ数字は平成3年の放流月

アラビア数字は平成 4 年の放流月



本標記録方文添付書

場所名	対象種	放流目的	放流年月	尾数	標識の方法	放流位置	魚体	記号
北海道立中央水産試験場	スルメイカ	移動回遊経路の把握	4. 6	1,730	7カタ-カ-鑽部打込み	43° 00' N, 140° 00' E 13~18cm	北中6~10, 北中7~8-40	
			4. 6	3,559	"	42° 20' N, 139° 40' E 15~20cm	北中E601-1-000 北中#841-1-014 北中B401-1-000	
			4. 6	500	"	43° 00' N, 139° 30' E 14~20cm	北中C36-105, 176-385, 456-1000	
			4. 6	500	"	43° 30' N, 139° 30' E 14~19cm	北中#81-100 北中#101-120	
			4. 7	225	"	43° 30' N, 139° 30' E 20~27cm	北中#765-050	
			4. 7	373	"	44° 26' N, 140° 31' E 11~23cm	北中#412-450	
			4. 7	375	"	44° 17' N, 140° 50' E 11~25cm	北中#1-15	
			4. 7	50	"	44° 00' N, 141° 15' E 17~25cm	北中#16-17	
			4. 6	550	黄色7カタ-カ-	41° 00' N, 139° 00' E 12~18cm	ハコX1-550	
			4. 6	150	"	39° 59' N, 138° 04' E 15~20cm	ハコX1551-700	
			4. 6	175	"	40° 37' N, 139° 29' E 15~21cm	ハコX1701-875	
			4. 6	1,239	"	41° 12' N, 139° 51' E 14~19cm	ハコX1876-2175	
			4. 7	400	"	41° 00' N, 139° 01' E 18~27cm	ハコX2176-2575	
			4. 6	290	黄色円札15mm径ステラス針+金 ノサツア-カ-	ノサツア-カ-岬周辺 体重2.0kg以下	稚水K6001-6490	
			4. 3~4	500	黄色7カタ-カ-	45° 38' N, 141° 40' E 甲長5~10cm	稚水D7000-7499	
			4. 5	257	白色7カタ-カ-	44° 47' N, 140° 18' E 体長25cm前後	稚水H6251-6275	
			4. 5	100	白色7カタ-カ-	44° 59' N, 141° 03' E 体長25cm前後	稚水H6351-6600	
			4. 5	293	白色7カタ-カ-	44° 32' N, 140° 10' E 体長30~40cm	稚水H7001-7100	
			4. 5	123	白色7カタ-カ-	44° 50' N, 140° 53' E 体長30~40cm	稚水H7101-7121	
			4. 6	100	赤色7カタ-カ-	41° 05' N, 140° 15' E 平均168.7mm97.7g	稚水H7122-7248	
						784-799		
						深浦町北金ガ沢 鑑ヶ沢港沖 赤石川ふ化場	平均82.5mm 平均80.0mm 平均6.37mm2.64g	
						追良瀬川ふ化場	平均5.08mm1.32g	
青森県水産試験場	ウスメバル	成魚の移動分散の把握	4. 6					
	クロソイ	放流技術追跡用 移動分布成長等	4. 9	76,450	右腹鱗抜去			
	シロザケ	大型稚魚育成技術開発 試験 健苗生産基準化調査	4. 8	9,468	黄色7カタ-カ-			
			4. 3	100,000	脂鱗カット			
			4. 4	40,000	脂鱗+左腹鱗カット			

本調査方針沿革

場所名	対象種	放流目的	放流年月	尾数	標識の方法	放流位置	魚体	記号
青森県水産増殖センター 秋田県水産振興センター	サクラマス	サクラマス資源増大対策	4.5	56,000	脂鱗カット	追良瀬川ふ化場	平均30g	
スルメイカ		移動回遊経路把握 移動回遊	4.4-5 4.5 4.9	98 350 700	白色fサ-7' + 黄色fサ-18'	深浦町沖合	FL33~59cm 37° 34' N, 136° 00' E 40° 39' N, 139° 22' E 40° 38' N, 139° 54' E	74スイ1-98
サケ		親魚の移動回遊	3.10 3.11 3.11 3.11 3.11 3.11	20 30 69 70 51 22	デイクタグ' デイクタグ' デイクタグ' デイクタグ' デイクタグ' デイクタグ'	40° 38' N, 139° 54' E 40° 38' N, 139° 54' E 岩崎沖	FL17~20cm E 15~23cm	
マダラ	ヒラメ	系群の把握 放流技術開発 放流技術開発	3.10 3.10 4.7	52,832 49,293 155	凍傷痕ALC耳石染色 凍傷痕ALC耳石染色 XN'デイクタグ'	南秋田郡天王町地先 能代市落合地先 男鹿市立浦地先	TL: 90~110mm TL: 30~110mm TL: 190~290mm	日青t1-22 +印 +印 ・刻印
クロソイ	ハタハタ	移動分散状況の把握 放流効果の把握	4.8 3.10 4.9 4.4	521 40,000 40,000 502,000	白色fサ-7' + 赤色fサ-7' 白色fサ-7' ALC耳石染色	男鹿市立浦地先 能代港防波堤突端 能代港防波堤突端 男鹿市立浦地先	TL: 200~320mm 平均TL: 118mm 平均TL: 114.8mm 秋4 秋4	秋3001-3526
シロサケ	ウツメバチ シロサケ	回遊生態、時期、量 に関する資料整備 移動分散状況の把握 の把握	4.5 3.10 3.11 3.12 4.5 4.3	86,000 21 116 116 54 1,000 168,649	ALC耳石染色 デイクタグ' + デイクタグ' デイクタグ' + デイクタグ' デイクタグ' + デイクタグ' 1,000 赤色fサ-7' 脂 + 左腹鱗切除	男鹿市立浦地先 二賀保町平沢沖 二賀保町平沢沖 金浦町八森沖 八森町八森沖 象潟町川袋川	平均FL: 46.1mm 平均FL: 630mm 平均FL: 700mm 平均FL: 700mm 平均TL: 121mm 平均BW: 1.3g	D: 水産庁1501-1680 A: 101-350 AT刻印
サクラマス		回場産、回遊生態、放流効果	4.3 4.3 4.4 4.4	136,722 81,600 15,000 1,000	脂 + 右腹鱗切除 右腹鱗切除 右腹鱗切除 右腹鱗切除	象潟町川袋川 阿仁町森吉町阿仁川 合川町阿仁川 男鹿市小曾川 温海町早田冲	平均BW: 2.4g FL: 91~131mm FL: 101~131mm FL: 80~140mm FL: 56~88cm	
サクラマス	サケ	降海状況の把握 産卵回遊時期回遊経路	3.10-11	150	デイクタグ' + ハバゲテイタグ' × 2	三瀬川 鶴岡市堅苦沢地先 鶴岡市加茂地先	D: 白、水産庁2001-2150 S: 黄、YM2001-2319	
山形県水産試験場	サケ クロソイ	稚魚放流適期の把握 放流技術開発 (放流効果把握)	4.3 4.9	149,000 38,000	脂鱗 + 右脛鱗 脂鱗 + 左脣鱗 右脣鱗抜去		平均FL: 68.7mm 平均FL: 70.0mm 平均TL: 96mm	

良情流文方譜標

場所名	対象種	放流目的	放流年月	尾数	標識の方法	放流位置	魚体	記号
新潟県水産試験場	シロギス シロサケ ウバエイ マダラ	移動回遊経路 回帰経路回帰量の解明 砂浜域への移殖可能性 移動回遊	4.7-8 3.9 4.5 4.3	432 120 2,300	アカ-タグ・ テ-タグ+フジ-タグ 青色ロゴW77 10 ブラック	鶴岡市加茂沖 三面川河口 新潟市見浜地先 栗島冲合	TL:10~21cm 回帰親魚 淡水成貝 漁獲成魚	赤, YM001-432 水產庁2501-2620 新潟301, 304-307, 309- 313 新潟314 日水1-50 日研F1-~F16
新潟県栽培漁業センター	スルメイカ	移動回遊	4.3 4.7 4.8 4.9	1 100 1,500 5,400	テ-タグ アカ-タグ ALC-重標識	佐渡島崎崎沖 佐渡弥彦堆中 ロシア200m水域内 佐渡島真野湾	ML:17~28cm ML:19~30cm 平均TL:12.3mm	新潟301, 304-307, 309- 313 新潟314 日水1-50 日研F1-~F16
富山県水産試験場	ヒラメ クロソイ サザエ クルマエビ クルマエビ サケ	音響給餌により中間育成種苗の放流効果 放流効果 放流効果 初期貯散食害 初期貯散食害 移動、成長	4.7 4.8 4.8 4.9 4.9 4.4	11,000 47,800 15,000 149 712 66,000	ALC二重標識 左腹鱗切去 赤色着色 リボンタグ、緑 ナビG手術糸 鱗切除(Ad+LV)	佐渡島真野湾 佐渡島真野湾 佐渡島面津湾 黒部市地先 黒部市地先 庄川 庄川	平均TL:40mm TL:60~101mm 船長145mm AV14.4mm(BL) AV5.8mm(BL) PL:6.0cm PL:8.3cm	黄, TY2 黄, TY3 黄, TY6, 7 黄, TY9, 10 黄, TY8 黄, TY5 黄, TY92
トヤマエビ スルメイカ	トヤマエビ 移動成長性転換調査 スルメイカ	幼魚移動、成長 移動成長性転換調査 移動成長	4.2 4.2 4.4 4.5 4.5 4.6 4.6 4.8 4.8 3.11	49,000 49,000 500 500 500 1,000 825 494 295 732	鱗切除(指+左腹鱗) 鱗切除(指+右腹鱗) リボンタグ S-A S-B S-C S-D S-E S-F S-G	庄川 滑川地先 滑川地先 庄川 庄川 庄川 庄川 庄川 庄川 富山市四方沖	PL:12.1cm PL:13.0cm BL:111.1mm	黄, TY2 黄, TY3 黄, TY6, 7 黄, TY9, 10 黄, TY8 黄, TY5 黄, TY92
富山県栽培漁業センター	サクラマス トヤマエビ スルメイカ	幼魚移動、成長 移動成長性転換調査 移動成長	4.2 4.4 4.5 4.5 4.6 4.6 4.8 4.8 3.11	49,000 500 500 500 1,000 825 494 295 732	リボンタグ S-A S-B S-C S-D S-E S-F S-G	庄川 滑川地先 滑川地先 庄川 庄川 庄川 庄川 庄川 富山市四方沖	PL:12.1cm PL:13.0cm BL:111.1mm	黄, TY2 黄, TY3 黄, TY6, 7 黄, TY9, 10 黄, TY8 黄, TY5 黄, TY92
石川県水産試験場	サケ クロダイ スルメイカ	回遊経路時期回遊量 移動成長 移動	3.10-11 4.3 3.10 3.10 3.10 3.10 3.11 3.11 3.11	73 3,000 500 500 500 500 500 1,000 1,500	アカ-タグ 青色ロゴタグ アカ-タグ アカ-タグ アカ-タグ アカ-タグ アカ-タグ アカ-タグ アカ-タグ	富山市金沢地先 水見市小境地先 40° S11° N, 136° E 41° 06' N, 136° E 40° 31' N, 138° E 40° 37' N, 136° E 39° 57' N, 136° 42' E 39° 29' N, 134° 35' E 39° 27' N, 134° 04' E	TL:54~80cm 平均84.7mm9.6g E 20~28cm E 17~28cm E 17~28cm E 19~28cm E 13~29cm E 17~28cm	水產庁, 日3001-3073 黄, 石#4-499 黄, 石#500-599 黄, 石#70-499 黄, 石#500-999 黄, 石#70-499 黄, 石#500-999 黄, 石#70-499 黄, 石#70-499

幸 幸 流 汎 文 法 講 研 会

場所名	対象種	放流目的	放流年月	尾数	標識の方法	放流位置	魚体	記号
			3.11	1,500	7ノホタケ	39° 29' N. 133° 41' E 17~31cm	黄, 石#0-499	
			4.8	1,000	7ノホタケ	41° 59' N. 138° 22' E 19~30cm	黄, 石#0-999	
			4.8	2,000	7ノホタケ	44° 01' N. 138° 38' E 20~29cm	黄, 石#0-999石#0-999	
			4.8	2,000	7ノホタケ	45° 18' N. 139° 38' E 20~28cm	黄, 石#0-999石#0-999	
			4.8	1,000	7ノホタケ	42° 03' N. 138° 21' E 18~28cm	黄, 石#0-999	
			4.9	500	7ノホタケ	40° 28' N. 137° 38' E 17~32cm	黄, 石#0-499	
			4.9	500	7ノホタケ	40° 00' N. 135° 14' E 19~23cm	黄, 石#0-999	
			3.11	84	7ノホタケ	能都町土見沖	赤, IK91	
			4.8	7,442	7ノホタケ	富来町西海沖	黄, IK92	
			4.5	1,997	白バ'ウカキ	36° 50' N. 136° 09' E		
			4.5	1,998	白バ'ウカキ	36° 37' N. 135° 57' E		
			4.5	1,987	白バ'ウカキ	37° 54' N. 136° 31' E		
			4.5	1,999	白バ'ウカキ	37° 28' N. 135° 10' E		
			4.9	17,800	背鱗切除	七尾北湾	平均TL:12.0mm	
			4.9	12,500	背鱗切除	七尾北湾	平均TL:62.7mm	
			4.6	600	標識札	へ倉島	平均棲長40mm	
							平均棲長13.3mm	
							平均棲長41.7mm	
石川県増殖試験場	マダイ	放流効果移動分散				七尾南湾	日水研BB	
	クロダイ	放流効果移動分散				七尾南湾	日水研BC, BD, BE, BF	
	アワビ	移動分散放流効果				40° 30' N. 134° 30' E ML:140~175mm	日水研BG, BH, BI, BJ, BK	
						40° 00' N. 135° 15' E ML:125~175mm		
						38° 00' N. 135° 15' E ML:140~225mm		
							, 72.73	
								日水研F21, F22
								7/1/91
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
								FK92
福井県水産試験場	トリガイ	放流効果	4.5	1,640	青色7ノホタケ	38° 40' N. 136° 09' E ML:140~225mm	日水研F21, F22	
	アカガイ	放流効果魚獲効率	4.7	12,200	緑色ハ'ヌキ	敦賀市立石地先		
	スルメイカ	移動回遊の把握	4.6	65	黄色7ノホタケ	36° 27' N. 135° 57' E		
			4.6	400	黄色7ノホタケ	36° 00' N. 135° 49' E		
			4.6	700	黄色7ノホタケ	36° 27' N. 135° 57' E		
						35° 57' N. 135° 34' E		
						35° 52' N. 135° 44' E		
						35° 52' N. 135° 44' E		
						美浜町丹生		
						美浜町丹生		
						FL: 97mm		
						FL: 107mm		
福井県栽培漁業センター	マダイ	音響馴致放流後の滞留状況の把握	4.7	90	緑色7ノホタケ			
			3.10	23,200	左腹鱗抜去			
			3.12	11,300	背鱗かた			

標準試験方法検査情況

場所名	対象種	放流目的	放流年月	尾数	標識の方法	放流位置	魚体記号
京都府立海洋センター	クロソイ	放流技術開発事業	4.6	8,700	右腹鱗カットうち520尾にタグ	美浜町丹生	FL:127mm TL:76mm
			4.9	81,900	右腹鱗抜去	美浜町丹生	TL:105mm
			3.11	12,500	右腹鱗抜去	越瀬村	TL:105mm
			3.11	10,000	タグ+右腹鱗抜去	越瀬村	TL:101mm
			3.11	26,000	右腹鱗抜去	小浜市	TL:101mm
	ヒラメ	移動回遊	3.11	10,000	タグ+右腹鱗抜去	小浜市	赤, FK3
			3.11	5,000	右腹鱗抜去	美浜町越瀬村	TL:79mm
			4.10	10,000	左腹鱗抜去+タグ	小浜市	黄, FK3
			3.10	82	水色7+タグ φ15mm	石川県富来町海士岬沖	黄, FK4 緑, FK4 KT282-363
			3.11	96	レモン色7+タグ φ15mm	伊根町鰐崎沖	KT126-150, 301-371
	アオリイカ	内湾利用放流技術開発	3.11	24	水色7+タグ φ15mm	舞鶴市成生崎沖	KT364-387
			4.6	58,000	ALC耳石染色	久美浜湾	TL:31.3±2.5mm 一重染色
			4.7	5,000	ALC耳石染色	宮津市島陰地先	TL:63.0±8.5mm 一重染色
			4.8	11,000	無眼側胸鱗かきALC耳石染色	久美浜湾	TL:105.7±13.0mm 二重染色
			3.10-11	870	ハゲタグ 又はリバタグ	京都府沿岸	DML:7~22.5cm J:KT91=001-999
	ズワイガニ	資源特性の解明	3.10	636	レモン色7+タグ	京都府沖合	J:KT001-400
			4.8	556	レモン色7+タグ	京都府沖合	KT3283-3888
			4.9	305	レモン色7+タグ	京都府沖合	KT3901-3956
			3.10	2,733	ビンタグ	蒲入二ッ歛	KT3957-4047
			3.11	442	青リグ	蒲入二ッ歛	KT4201-4414
	サザエ	生残率の推定 回収率の推定 標識方法の試験 分散状況の把握 漁具能率の推定 資源推定方法の試験	3.11	2,848	ビンタグ	蒲入二ッ歛	46.5±3.7mm 23.1±2.9mm
			3.11	3,872	赤7ロ7W7	蒲入斜路	14.8±2.2mm
			3.10	158	朱7ロ7W7	伊根ヒジキ	27.8±3.2mm
			3.10	300	青リグ	伊根実験礁	23.3±1.7mm
			3.10	300	ビンタグ	伊根実験礁	23.1±1.7mm
			3.10	300	黄リグ	伊根実験礁	24.5±2.4mm
			3.11	2,625	赤7ロ7W7	栗田田井	23.6±2.6mm
			3.10	280	青リグ	栗田実験礁	25.8±2.1mm
			3.10	280	黄リグ	栗田実験礁	25.4±2.3mm
			3.10	280	ビンタグ	栗田転石礁	25.1±2.4mm
			3.10	5,500	朱7ロ7W7	蒲入向ノ浜	24.0±2.3mm
			4.5	7,000	紫リグ	蒲入向ノ浜	23.4±2.7mm
			4.5	10,450	朱7ロ7W7	蒲入向ノ浜	23.4±2.7mm

本標識法方針流下青 幸日

場所名	対象種	放流目的	放流年月	尾数	標識の方法	放流位置	魚体	記号
兵庫県但馬水産事務所	スルメイカ	特定外養長の再捕率、移動方向、距離、成長	4.6	800	紫リソグ、赤7ワ7ワ7ワ7	伊根ネコ岩 栗田小田宿野	26.4±2.5mm 26.3±2.9mm	HG048, HG049 HG020, HG021
ヒラメ	人工稚苗の移動分散	4.7	500	着色7ワ7ワ7ワ7	39° 00' N. 134° 37' E. ML: 20.5~22.5cm 38° 20' N. 134° 00' E. ML: 25~27cm	39° 00' N. 134° 50' E. ML: 25~27cm	HG018, HG019	
ズワイガニ	移動分散の把握	4.9	169	青7ワカ-タ7	39° 50' N. 134° 38' E. 23.0cm~17.3g	35° 36' N. 134° 27' E. 23.3cm~15.1g	HG	
ズワイガニ	稚稚放流個体の移動、分散及び生殖	3.10	194	青7ワカ-タ7 60mm	35° 52' N. 134° 35' E. A70~95mm×130mm	35° 52' N. 134° 35' E. A70~95mm×130mm	HG0004, 0005	
ズワイガニ	移動分散	4.9	2,938	緑7ワカ-タ7 35mm	35° 55' N. 134° 50' E. #391~125mm	35° 55' N. 134° 50' E. #391~125mm	HG0048~0051	
ズワイガニ	移動分散	3.10	2,280	茶7ワカ-タ7 35mm	35° 55' N. 134° 35' E. #390~130mm	35° 55' N. 134° 35' E. #390~130mm	HG0052~0055	
ズワイガニ	移動分散	4.4	1,504	黄7ワシス7 15mm	35° 55' N. 134° 35' E. #368~108mm	35° 55' N. 134° 35' E. #368~108mm	HG0007~0014	
ズワイガニ	移動、群構造の把握	4.4	1,220	黄7ワシス7 15mm	35° 10' N. 131° 35' E. 18~25cm	35° 11' N. 131° 45' E. 18~24cm	T2 1~40	
ズワイガニ	移動分散	4.6	1,725	黄7ワシス7 15mm	36° 02' N. 133° 26' E. 15~24cm	36° 02' N. 133° 26' E. 15~24cm	T2 41~56	
ズワイガニ	移動分散	4.6	1,730	黄7ワシス7 15mm	36° 15' N. 133° 01' E. 15~21cm	36° 15' N. 133° 01' E. 15~21cm	T2 61~64	
鳥取県水産試験場	スルメイカ	4.4	35	白7ワカ-タ7	6.6	6.6	T2 65, 66, 68	
ズワイガニ	移動、群構造の把握	4.4	18	白7ワカ-タ7	37° 59' N. 133° 43' E. 16~24cm	37° 59' N. 133° 43' E. 16~24cm	TT4 4, 5	
ズワイガニ	移動分散	4.4	4	白7ワカ-タ7	33° 00' N. 133° 17' E. 16~25cm	33° 00' N. 133° 17' E. 16~25cm	T2 101~100	
ズワイガニ	移動分散	4.4	5	白7ワカ-タ7	37° 20' N. 132° 50' E. 16~24cm	37° 20' N. 132° 50' E. 16~24cm	TT4 35~89	
ズワイガニ	移動分散	4.6	696	白7ワカ-タ7	39° 01' N. 133° 40' E. 17~27cm	39° 01' N. 133° 44' E. 16~25cm	TT4 490~839	
ズワイガニ	移動分散	4.6	634	白7ワカ-タ7	37° 59' N. 133° 44' E. 16~25cm	37° 59' N. 133° 44' E. 16~25cm	T4 466~915	
ズワイガニ	移動分散	4.6	346	白7ワカ-タ7	39° 01' N. 133° 40' E. 17~27cm	36° 28' N. 133° 41' E. 11~26cm	TT4 1~465	
ズワイガニ	移動分散	4.6	450	白7ワカ-タ7	36° 41' N. 133° 23' E. 13~27cm	36° 41' N. 133° 23' E. 13~27cm	T5 101~500	
ズワイガニ	移動分散	4.7	442	白7ワカ-タ7	38° 00' N. 133° 17' E. 16~30cm	38° 00' N. 133° 17' E. 16~30cm	T5 501~905	
ズワイガニ	移動分散	4.7	24	白7ワカ-タ7	39° 02' N. 133° 25' E. 14~25cm	39° 02' N. 133° 25' E. 14~25cm	T5 906~980	
ズワイガニ	移動分散	4.8	398	白7ワカ-タ7	36° 03' N. 133° 49' E. BL: 14~20cm	36° 03' N. 133° 49' E. BL: 14~20cm	TT8 0~750	
ズワイガニ	移動回遊路	4.9	395	白7ワカ-タ7	35° 58' N. 133° 50' E.	35° 58' N. 133° 50' E.	東伯郡泊村	
ハタハタ	移動回遊路	4.8	750	赤7ワカ-タ7 25mm	TL: 15.0~25.3cm	TL: 15.0~25.3cm	TS3 618~680	
ヒラメ	0才魚の移動、成長	3.10	63	7ワカ-タ7・細25mm	TL: 7.0~15.0cm	TL: 7.0~15.0cm	東伯郡泊村	
ヒラメ	漁獲圧の資料	3.10	214	7ワカ-タ7 20mm	TL: 11.9~22.8cm	TL: 11.9~22.8cm	東伯郡泊村	
		3.11~12	310	7ワカ-タ7 細25mm	TS3 651~999	TS3 682~776		

本県諸島放流個体目録

場所名	対象種	放流目的	放流年月	尾数	標識の方法	放流位置	魚体 記号
メイタガレイ 資源管理型漁業推進総合対策事業	メイタガレイ	資源管理型漁業推進総合対策事業	4.5-6	157	ワカタケ・細25mm	東伯郡泊村	TL:18.2~30.0cm TS3 826-939
			3.10	31	ワカタケ'	東伯郡泊村	TL:11.3~16.6cm TS3 284-825
			3.10	31	ワカタケ'	橋津川沖	TL:10.3~17.2cm TS2 717-729
			3.10	38	ワカタケ'	東伯郡泊村	TL:10.4~17.3cm
			3.10	8	ワカタケ'	気高郡長和瀬中	TL:9.2~21.4cm
			3.10	39	ワカタケ'	天神川沖	TL:9.8~15.2cm
			3.11	12	ワカタケ'	東伯郡泊村	TL:12.3~18.1cm
			3.12	27	ワカタケ'	東伯郡泊村	TL:12.4~17.2cm
			3.12	38	ワカタケ'	東伯郡泊村	TL:12.2~20.6cm
			4.9	478	ワカタケ'	東伯郡泊村	TL:11.1~22.7cm TS7 0-576
マダイ 資源管理型漁業推進総合対策事業	マダイ	資源管理型漁業推進総合対策事業	4.9	75	ワカタケ'	東伯郡泊村	TL:11.4~15.9cm
			3.10	9	ワカタケ'	東伯郡泊村	TL:7.0~9.7cm
			3.10	67	ワカタケ'	天神川沖	TL:6.7~11.8cm
			3.10	39	ワカタケ'	東伯郡泊村	TL:8.1~11.7cm
			4.4	142	ハヤシネン+白テイズ	大社町日御崎沖	TL:53~69cm TS91 200-600
			4.5	157	ハヤシネン+白テイズ	大社町日御崎沖	PL:55~63cm
			4.5	2,000	ヒニキ板覆銅線	大社町地先	平均船長35mm 1-500
			4.9	2,500	ヒニキ板覆銅線	鳥根町多古地先	殻高10~60mm
			3.10	30,000	青ワカタケ 15mm	隱岐島前海域	H3
			3.10	30,000	赤ワカタケ 15mm	隱岐島前海域	H3
ブリ クロアワビ サザエ マダイ	2才魚の移動生態	放流後の減耗状況	4.4	2,000	ヒニキ板覆銅線	出雲海域	100.9mm
		放流目の成長把握	4.5	30,000	青ワカタケ 15mm	隱岐島前海域	H3
		音響駆致効果	4.9	2,000	左腹鱗抜去	隱岐島前海域	H3
		放流効果移動実態	3.10	28,000	黄ワカタケ 15mm	隱岐島前海域	100mm
		音響駆致効果	4.9	30,000	白ワカタケ 15mm	隱岐島前海域	100mm
			4.10	30,000	青ワカタケ 15mm	隱岐島前海域	100mm
			4.10	13,500	右腹鱗抜去	隱岐島前海域	100mm
			4.10	13,500	左腹鱗抜去	隱岐島前海域	100mm
			4.11	3,100	赤チヌ'	浜田沖	100mm
			4.6	10,000	赤ワカタケ'	隱岐島前海域	100mm
ヒラメ トラフグ	放流効果移動実態	音響駆致効果	4.10	14,365	青ワカタケ'	隱岐島前海域	120mm
		放流効果移動実態	4.9	2,000	赤チヌ'	浜田沖	120mm
		放流技術開発事業	4.8	24,863	ALC耳石染色	下関市長府外浦	TL:70mm
			4.8	10,000	ALC耳石染色	長門市仙酔濱内	TL:70mm
			4.8	509	ALC耳石染色+ワカタケ'	萩市越ヶ浜地先	TL:100mm
			4.8	4,165	ALC耳石染色+ワカタケ'	萩州島沖对島沖	赤, 山E-4
			4.8	1,563	ALC耳石染色+ワカタケ'	黄, 山口01	黄, 山口01

右側 単語訳方文 況情幸日

場所名	対象種	放流目的	放流年月	尾数	標識の方法	放流位置	魚体	記号
日本栽培漁業協会 能登島事業場	アカウニ アオリイカ	放流漁場高度利用技術 開発事業 移動生態	4.9 4.6 4.4	9,691 9,586 1,800	ALC耳石染色+7ワタケ ALC耳石染色+7ワタケ サロマケ 8着	長門市仙崎湾内 下関市南風泊沖 日置町黄波戸	TL:122mm TL:122mm TD:29.1~30.5mm	白, 山口Y1 白, 山口Y
日本栽培漁業協会 宮津事業場	ブリ	移動	3.10 3.12	500 443	リボンケ 背骨型デイカケ 背骨型デイカケ	長崎県福江市崎山地先 長崎県福江市塙津地先	DML:130~300mm	赤, ヤケチ三桁連番 黄, 77191三桁連番
日本栽培漁業協会 ムシガレイ	マガレイ マダラ ムシガレイ	放流初期の移動 移動 移動分散状況の把握	4.5 4.5 4.7	8,000 3,000 880	ALC耳石標識 ALC耳石標識 青7ワタケ 15mm + 黄色デイカケ	富山湾能登島沖 富山湾能登島沖 新潟県岩船沖 富山湾能登島沖 京都府網野町浅茂川	FL:304mm FL:296mm TL:12mm TL:15mm TL:150.3mm	緑, KT三桁連番 青, ノト91 白, ノト91
日本栽培漁業協会 小浜事業場	トヤマエビ	放流後の移動分散天然 海域における成熟生態 の解明	4.5	1,502	タテヨコ 白リボンケ	36° 47' N. 137° 20' E	BL:111.1mm	
日本海区水産研究所	ヒラメ ヒラメ スルメイカ	人工魚の色素消長 放流技術開発試験 分布移動	4.6 4.6 4.7	110,000 8,000 495	ALC染色 ALC染色 7ワタケ 黄25mm赤40mm	事業場地先 新潟県五所川原港	CL:31.2mm BW:24.5g TL:22.2mm	日水研131-135
						38° 30' N. 137° 30' E	ML:20~23cm	" 136-140 " 126-130, 141-150 " 151-160 " 151-170
						43° 57' N. 137° 27' E		" 136-140
						43° 40' N. 135° 55' E		" 126-130, 141-150
						43° 06' N. 136° 40' E		" 151-160
						41° 30' N. 135° 27' E		" 151-170
						40° 45' N. 134° 47' E		" 171-175
						41° 30' N. 133° 46' E		" 176-185
						42° 13' N. 131° 13' E		" 186-200
						41° 18' N. 132° 29' E		" F131-135

日本海アロックの各機関で行った標識の概要をまとめた。
 標識放流調査では、十分な再捕がなされることは必要条件となります。漁業者の皆さんの協力が是非とも必要です。再捕された方は、
 最寄りの漁業組合、各県水産試験場等または日本水研まで御報告ください。お願いします。
 なお、お忙しい中、資料を作成していただいた各機関担当の方々に厚く御礼申し上げます。